

# ディスタンクシオン

総合政策学部 1 年  
学籍番号 7 1 1 0 2 4 1 8  
川井祐樹

## 1. 著者紹介

### ・略歴

1930年フランスのダンガンに生まれる。高等師範学校を卒業後、哲学の教授資格を取り、リセの教員となる。一旦アルジェリア戦争（1958）に徴兵され、戦後アルジェリア大学で助手を務める。その後はフランスに戻り、パリ大学助手（1960~61）リール大学講師（1961~64）を経て81年には、フランス最高学府と言われるコレージュ・ド・フランス教授に就任し精力的な活動を行った。

### ・主な著書（単著）

- 『構造と実践——ブルデュー自身によるブルデュー』（新評論, 1988年）
- 『ディスタンクシオン——社会的判断力批判（1・2）』（藤原書店, 1990年）
- 『社会学の社会学』（藤原書店, 1991年）
- 『話すということ——言語的交換のエコノミー』（藤原書店, 1993年）
- 『資本主義のハビトゥス——アルジェリアの矛盾』（藤原書店, 1993年）
- 『美術愛好——ヨーロッパの美術館と観衆』（木鐸社, 1994年）
- 『芸術の規則（1・2）』（藤原書店, 1995年-1996年）
- 『ホモ・アカデミクス』（藤原書店, 1997年）
- 『教師と学生のコミュニケーション』（藤原書店, 1999年）
- 『ハイデガーの政治的存在論』（藤原書店, 2000年）
- 『メディア批判』（藤原書店, 2000年）
- 『市場独裁主義批判』（藤原書店, 2000年）
- 『実践感覚（1・2）』（みすず書房, 2001年）
- 『ピエール・ブルデュー——1930-2002』（藤原書店, 2002年）
- 『政治——政治学から「政治界」の科学へ』（藤原書店, 2003年）
- 『住宅市場の社会経済学』（藤原書店, 2006年）
- 『実践理性——行動の理論について』（藤原書店, 2007年）

『結婚戦略——家族と階級の再生産』（藤原書店, 2007年）

## 2. 基本的な概念の説明（ディスタクシオン I 本書を読む前に掲載）

- ・ハビトゥス・・・ある集団における特有の知覚様式（物の見方）のこと  
これによって私たちの行動は方向づけられ、またその行動に対する  
価値評価も異なってくる。また性向の体系ともいえる
- ・卓越化・・・他人と自分を区別し際立たせること
- ・文化資本・・・個人が持つ文化に関する物事。i 身体化されたもの ii 客体化されたもの iii  
様々な制度によって承認されたもの の3つに大きく分かれる
- ・学歴資本・・・学校教育を通して私たちが得られるものの総称
- ・社会関係資本・・・簡単に言えば人間関係、もしくは人脈に近い
- ・慣習行動・・・私たちの行う行動ほとんど全てのことを包括した言葉
- ・行為者・・・人間と置き換えられる言葉。
- ・性向・・・私たちが日々行っている行動を無意識の段階で方向づけている性質
- ・場・・・ある共通の特徴でくられる集合、つまりどのような集団や状況かということ
- ・社会界・・・自然界との対比を意識した概念。
- ・象徴闘争・・・何を「正統」なものとするかを巡る上層階級での争い

## 3. どのようなことが書かれているか

私たちの持っている様々な選択やその選択に対する評価は、決して個人の自由意思によって行われているものではなく、その個人が所属している階級や資本によってかなりの程度方向づけられている。

## 2. 本書の内容

### 1章 : 文化貴族の肩書と血統

- ・私たちの行っている選択は自由なのか？（学歴、学校教育+階級による方向付け）

→自由ではない

私たちの行っている選択は

i : 学歴よって

ii : 学歴が同等の場合は階級（家庭における教育）によって

かなりの程度方向づけられる。

ブルジョワ＝形式的V S機能＝大衆

選択は方向づけ（行為者の特性も知覚様式）られ、頂点にブルジョワを置くピラミッド型のヒエラルキーが形成

## 2章 : 社会空間とその変貌

1章で示されたヒエラルキーを社会空間全体に適応  
具体的にどのような形で私たちの階級は決定されるのか。

i : 資本総量→これによってブルジョワ・プチブル・大衆のどこに属しているかが大まかに決定される

ii : 資本構造（配分）→これによって自分の属している階級内において主に 3 つの区分が行われる。

3つの区分とは・・・a)文化資本>経済資本(教授・教員など)

b)文化資本<経済資本（経営者、商人など）

c)文化資本≒経済資本（医者、弁護士など）

i と ii を総合的に図示したのがディスタンクシオン I にある

図 5・（p 191 と 192 の間にあります）

・社会空間における諸特徴

- ・全体のシステムが静的ではなく動的な行為の集積によって、安定性を維持している
- ・ヒエラルキーの後続集団がそのヒエラルキーのトップに上り詰めることの不可能性
- ・上流集団を上流集団として規定する特性は、上流集団によって（その内部の闘争によって）規定される。

## 3章 : ハビトゥスと生活様式空間

第2章で示された構造が、生活様式（日常生活）にも一貫して存在していることを示す

- ・生活様式に存在する一見共通点のない差異は第2章に示された構造に収斂される（反映されている）

## 4章 : 場の力学

この章では、文化的

- ・ 5章～8章＝第4章（ディスタクシオンⅠ）までの理論を各階級に適用・具体例的  
各章に示されている図は、第2章で示されたものを階級ごとにマイクロな視点で表したもの。
- 5章：上流階級（ブルジョワジー）の特性
- 6章：中間階級（プチブル）の特性
- 7章：下流階級（大衆）の特性

#### 参考文献

- ・ ディスタクシオンⅠ・Ⅱ（ピエール・ブルデュー）
- ・ Wikipedia（ピエール・ブルデュー）  
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%94%E3%82%A8%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%96%E3%83%AB%E3%83%87%E3%83%A5%E3%83%BC>